

福井県環境科学センター年報

第 28 巻
1 9 9 8
(平成10年度)

Annual Report
of
Environmental Research Centre
of Fukui Prefecture
vol.28
1998

福井県環境科学センター

は じ め に

この年報は、当センターの平成10年度における業務内容と調査研究の概要を取りまとめ、年報第28巻として発刊したものです。ご高覧いただき、ご指導ご助言を賜れば幸いに存じます。

本県における環境の状況は、大気、水質等ともに環境基準をおおむね達成しており、全般的に良好な環境が維持されております。しかしながら、北潟湖、三方五湖の湖沼や地下水の汚染、都市部の中小河川の水質汚濁、自動車の交通公害等の地域社会的な環境問題を抱えております。

地下水汚染については、電気・電子関係の工場敷地内や周辺でトリクロロエチレンなどによる汚染が全国的に問題となり、本県でも新たに汚染が見つかり、地質環境の蓄積性、保全対策の難しさを見せられた思いです。

ダイオキシン、環境ホルモンなど新たな化学物質による環境汚染については、国の一斉調査に協力するとともに、県独自に汚染状況を把握するため環境調査を始めたところであります。今後ともデータの集積に務めていきたいと考えております。

平成11年7月には、ダイオキシン類対策特別措置法、化学物質排出管理法が制定され、今後、ダイオキシン類の包括的な対策や化学物質の管理強化、排出削減が進められていくでしょう。

地球温暖化をはじめとする地球環境問題は、その影響を受けるという意味では私たち一人ひとりが当事者でもあります。

家庭や職場、地域において、小さいことでも、できるところから環境にやさしい取り組みを積み重ねていくことがとても重要であると思います。

このため、本県においても、県自らが事業者として率先して環境にやさしい行動をしていくため、ISO14001の認証取得の準備を進めているところであります。

当センターでは、大気や水質等の環境の常時監視はもとより、有害大気汚染物質調査、酸性雨環境調査、湖沼の富栄養化等の調査研究に鋭意取り組んでおります。また、環境情報システムの整備も進めております。このシステムは大気、水質、発生源などの公害分野、動植物分布などの自然特性、道路や交通量などの土地利用の状況等、いろいろな環境情報を地図や図表の形に分かりやすく処理して、県民の皆様に提供するものです。

様々な角度、視点からの調査研究や科学的知見が必要です。これからも私たち地方環境・公害研究所は、技術分野から貢献していきたいと考えております。

どうぞ、当センターに対して皆様の一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年12月

福井県環境科学センター

所 長 宮 永 信 幸

目 次

I 運 営 概 要

1 環境科学センター概要

1.1 沿 革	1
1.2 機 構	1
1.3 業務内容	2
1.4 人 員	3
1.5 業務分担	3
1.6 人事記録	4
1.7 予 算	4
1.8 備品整備状況	5
1.9 研 修	6
1.10 教育・啓発	7
1.11 会 議 等	9

2 業 務 内 容

2.1 大気汚染防止対策	10
2.1.1 大気汚染常時監視調査	10
2.1.2 有害大気汚染物質調査	12
2.1.3 二酸化鉛法による硫黄酸化物濃度調査	14
2.1.4 TGSろ紙法による窒素酸化物（二酸化窒素）濃度調査	15
2.1.5 降下ばいじん調査	15
2.1.6 酸性雨調査	15
2.1.7 敦賀地区植物環境調査	16
2.1.8 煙道排ガス調査	16
2.1.9 燃料中の硫黄分調査	17
2.2 水質汚濁防止対策関係	17
2.2.1 公共用水域常時監視調査等	17
2.2.2 水域類型指定調査	18
2.2.3 工場・事業場排水監視調査	18
2.2.4 地下水監視調査	18
2.2.5 化学物質環境汚染調査	19
2.2.6 公共用水域補完調査（ゴルフ場農薬水質調査）	20
2.2.7 湖沼水質保全対策事業	20
2.2.8 酸性雨調査	20
2.2.9 公共用水域における魚類のへい死調査	20
2.3 騒音・振動防止対策関係	21
2.4 悪臭防止対策関係	21
2.4.1 嗅覚測定調査	21
2.4.2 悪臭物質調査	21

II 調査研究報告

1 調査研究

1. 平成元～10年度の酸性雨モニタリング調査結果 23
2. 環境情報の地図化手法の検討について（第2報）..... 36
Windows表示プログラムのCD-ROM化について
3. コンピューター通信による環境情報の提供（第7報）..... 42
—「環境レポートホームページ作成のためのクックブック」日本語版の作成—
4. 環境影響評価の実施に必要な情報の体系的整備に関する研究 47
—福井県環境影響評価制度支援情報システムの整備について—
5. 環境大気測定に係る湿式オキシダント自動測定機と乾式オゾン自動測定機の測定値の比較..... 53
6. 河川の汚濁解析（第1報）..... 64
—荒川—
7. 北潟湖・三方湖におけるプランクトンの季節的変動について（第3報）..... 70
—植物プランクトン（1998年度）—
8. 北潟湖・三方湖におけるプランクトンの季節的変動について（第4報）..... 78
—動物プランクトン（1998年度）—

2 ノート

1. 有害大気汚染物質（重金属類）の測定法に関する検討 89
—圧力容器法、ICP発光分析法による多元素同時分析—
2. 有害大気汚染物質（ベンゾ(a)ピレン）濃度について 99
3. 生物指標値による河川の水環境評価（第3報） 104
—浅水川における大型底生動物調査—
4. 夜叉ヶ池における酸性雨影響調査について（第3報） 108
5. 水素化物発生—ICP発光分析法による鉛の定量法の検討 111
6. 福井県内河川における農薬汚染実態調査（第5報） 114
—三方湖流域における実態調査—
7. 海外技術研修員を受け入れて 122
8. エネルギーの発生・利用に伴う環境負荷低減の動向調査に参加して（第2報） 124

III 学会および誌上発表抄録

- 1 学会発表 129
- 2 所内研究発表会 129

IV 運営資料

- 1 大気汚染常時監視調査関係資料 133
- 2 大気汚染調査関係資料 153
- 3 水質汚濁調査関係資料 167
- 4 環境科学センターの主な業務の変遷 183